

みずほCustomer Desk Report 2023/06/02 号 (As of 2023/06/01)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】				公示仲値	139.24
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	139.14	1.0694	148.77	1.2445	0.6506
SYD-NY High	139.95	1.0768	149.68	1.2539	0.6581
SYD-NY Low	138.44	1.0662	148.66	1.2401	0.6486
NY 5:00 PM	138.82	1.0762	149.34	1.2531	0.6573
	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	33,061.57	153.30	日本2年債	▲0.0600%	0.0000%
NASDAQ	13,100.98	165.70	日本10年債	0.4200%	▲0.0100%
S&P	4,221.02	41.19	米国2年債	4.3418%	▲0.0651%
日経平均	31,148.01	260.13	米国5年債	3.6984%	▲0.0589%
TOPIX	2,149.29	18.66	米国10年債	3.5998%	▲0.0457%
シカゴ日経先物	31,410.00	620.00	独10年債	2.2590%	▲0.0125%
ロンドンFT	7,490.27	44.13	英10年債	4.1200%	▲0.0550%
DAX	15,853.66	189.64	豪10年債	3.6480%	0.0180%
ハンセン指数	18,216.91	▲ 17.36	USDJPY 1M Vol	10.33%	▲0.49%
上海総合	3,204.63	0.07	USDJPY 3M Vol	10.35%	▲0.22%
NY金	1,995.50	13.40	USDJPY 6M Vol	10.38%	▲0.17%
WTI	70.10	2.01	USDJPY 1M 25RR	▲1.48%	Yen Call Over
CRB指数	257.37	3.52	EURJPY 3M Vol	9.63%	▲0.26%
ドルインデックス	103.56	▲ 0.77	EURJPY 6M Vol	9.94%	▲0.22%

東京	東京前日のFed高官の発言を背景とした利上げ期待の後退により、一時138.96まで下落後やや値を戻して、東京時間は139.14レベルでオープン。オープン直後は下押し圧力が強まるも139円手前で下げ止まると、その後は米債務上限法案が下院で可決されたことや、中国経済指標の予想比良好な結果を受けたリスクオン寄りの動きが強まり、円売りが優勢。ドル円も139円台後半までじりじりと上昇し、139.67レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、139.67レベルでオープン。アジア時間のドル上昇から一転してドル売りが続いた。朝方こそ139.95レベルまで上昇するも値を消し139.40レベルでNYに渡った。ユーロ圏5月CPIが予想を下回ったがラガルド・ECB総裁が「コアインフレのピークアウトの確証はない」と述べたことを受けてかユーロが対ドルで強含んだことも背景か。
ニューヨーク	中国5月財新製造業PMIが予想を上回り、中国景気減速に対する警戒感が一時後退し、リスクオンの円売りから140円手前まで上昇。しかし、その後米金利低下に伴い失速し、139.40でNYオープン。朝方に発表された米5月ADP雇用統計が予想を上回り、139.89レベルまで上昇する。しかし、その後に発表された米第1四半期単位人件費(確報値)が下方修正される内容を受け、米労働市場の過熱が減速している思惑から、ドル売りで反応。続いて発表された米5月ISM製造業景況指数も予想を下回り、138.44レベルまで下落する。午後はハーカー・フィラデルフィア連銀総裁が「少なくとも6月FOMCは利上げを見送るべきだ」との見方を示すも、前日も同様の内容を発言してか、反応薄。その後米金利が低水準で推移するのを横目に、138.80付近での上値重い展開が続き、138.82レベルでクロス。一方、海外市場のユーロ・ドルは1.06台後半でスタート。前日に複数のFRB高官が米6月会合で金利維持を示唆する発言を背景に、ラガルド・ECB総裁が「金利を十分に景気抑制的な水準に引き上げる仕事はまだ終わっていないとわれわれは明確にしている」との発言を受け、今後も利上げを継続する見方が強まり、欧米金利差縮小を意識する買いが優勢となり、1.07台前半まで上昇し、1.0706でNYオープン。朝方は弱い米経済指標の結果と欧州株式市場が堅調な展開が相まって、1.07台半ばまで上昇する。午後午前中の流れを引き継ぎ、1.0768まで値を上げる。終盤も高値圏での動きが続き、1.0762でクロス。

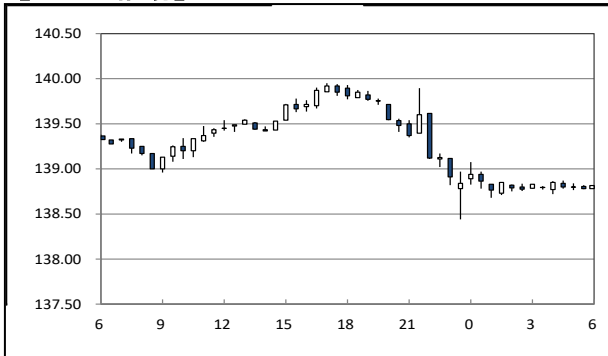
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
6月1日	10:45	中 Caixin中国製造業PMI	5月 50.9	49.5
	18:00	欧 CPI速報 前月比/前年比	5月 0%/6.1%	0.2%/6.3%
	18:00	欧 コアCPI・速報	5月 5.3%	5.5%
	21:15	米 ADP雇用統計	5月 278k	170k
	21:30	米 新規失業保険申請件数	27-May 232k	235k
	23:00	米 ISM製造業景況指数	5月 46.9	47

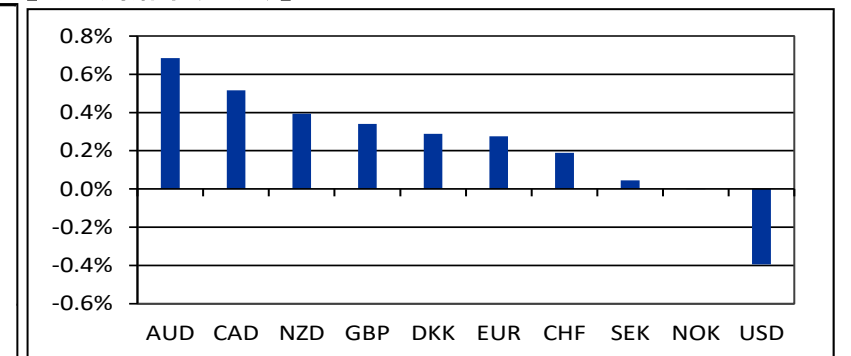
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
6月2日	21:30	米 非農業部門雇用者数変化	5月 195k	253k
	21:30	米 失業率	5月 3.5%	3.4%
	21:30	米 平均時給 前月比/前年比	5月 0.3%/4.4%	0.5%/4.4%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	137.50-139.80	1.0600-1.0800	148.00-150.50

【マーケット・インプレッション】

東京時間139.14レベルでオープン。中国5月財新製造業PMIが予想を上回り、中国景気減速に対する警戒感が一時後退し、リスクオンの円売りから140円手前まで上昇。しかし、その後米金利低下に伴い失速し139円台半ばまで反落。NY時間では、発表された米5月ADP雇用統計が予想を上回り、139.89まで上昇するも、その後発表された米第1四半期単位人件費(確報値)が下方修正される内容を受け、米労働市場の過熱が減速している思惑から、ドル売りで反応。続いて発表された米5月ISM製造業景況指数も予想を下回り、138.44まで下落。その後やや反発して、結局138.82でクローズ。ハーカー・フィラデルフィア連銀総裁が「少なくとも6月FOMCは利上げを見送るべきだ」との見方を示すも、前日も同様の内容を発言してか、反応薄となった。本日のドル円は上値重い展開を予想する。直近のJOLT求人・ADP雇用統計ともに強い結果だったものの、6月の米FOMCにおける利上げ折り込みが後退したことを受けて、ドル円は軟調推移となっている。本日は米5月雇用統計の発表が予定されているが、強い結果となった場合は大幅なドル円の上昇は難しいと考えられる一方、弱い結果となった場合のドル円下落リスクに留意したい。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 小林・田川